



閉校記念式典で「尚志」のはんてんを着て踊る在校生

学校編

学再編

がっこうさいへん

今年度をもって、「花輪第二中学校」と「花輪第一中学校」が統合し、来年度4月から「花輪中学校」として新たに歩み始めます。

本特集では、花輪第二中学校のこれまでの歩みと、統合に関わる両校の生徒の想いを紹介します。



校訓「尚志」石碑

鹿角市立花輪第二中学校

の栽培体験や親子奉仕活動、三世交代交流会などを行ってきました。なかでも、農作物の栽培体験では、地域の方々から指導していただき、花や野菜、果樹の栽培を通して、働くことの大切さや厳しさを学びました。

平成3年には、「勤労生産学習公開研究会」が行われ、多くの来場者に授業や活動内容を公開し、高い評価を受けました。公開研究会が終了した後も、勤労生産学習は花輪第二中学校の主要な取り組みとして継続されてきました。

現在も、総合的な学習の時間「創郷」の中で、地域の方々の協力のもと、農産物の栽培から販売までを生徒が行っています。

地域の方々に支えられながら歩んできた歴史も今年度で73年を迎え、これまでに5969人の生徒が、花輪第二中学校から巣立っています。

地域と関わり、
地域に根ざした
73年間。

現在の校舎で最後の集合写真をドローンで撮影



花輪第二中学校は、昭和22年に柴平村立柴平中学校として設立され歴史が動き出しました。その後、昭和31年の花輪町との合併を機に創立10周年記念式典を挙行し、名称を花輪第二中学校と改称しました。

昭和57年には新校舎が完成し、現在の校舎での授業がスタートしました。

昭和61年になると、「尚志」より高い理想を求め「心」が校訓として示され、校舎の前には、石碑が設置されました。

部活動では、昭和51年の全国陸上3千メートル準優勝をはじめ、陸上競技とスキー競技において、全国規模の大会に出場する選手を多数輩出し、全国に名をとどろかせました。

平成2年度からの2年間は、文部省と秋田県教育委員会から「勤労生産学習研究推進校」として指定を受けました。これは、現代社会の都市化・機械化が進む中で、子どもたちの日常生活において、家事をしたり、自然に触れたりする機会が減少している現状を踏まえ、子どもたちに「勤労」や「生産」に対する正しい認識や態度を身に付けさせるというものでした。

花輪第二中学校では、農作物

旧校舎 昭和57年卒業アルバムより

